

概要



- 安芸市は、高知市から東へ約40キロに位置する田園都市で、市の南部を横断する国道55号を中心に県東部地域最大の市街地を形成している。市の南は土佐湾に面し、北は四国山地を背に徳島県と接しており、面積は317.16km²、人口16,243人（令和2年国勢調査）を有している。市域の約89%を森林が占めており、市内の中央部には安芸川・伊尾木川が南流し、その流域には安芸平野が広がっている。
- 伊尾木漁港内には、道の駅大山（R6年春リニューアル予定）や「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれた河野公園（漁港石積堤）、恋人の聖地等の観光スポットがあり、隣接する景勝地大山岬公園周辺では海岸に立ち並ぶ巨岩を利用したボルダリングの自然体験が楽しめるなど、伊尾木漁港一帯は観光面での潜在的なポテンシャルを秘めたゾーンとなっている。
- 本漁港が位置する伊尾木集落には、波の浸食により出来た天然の海食洞である伊尾木洞もあり、市を代表する観光スポットとなっている。
- 令和4年の漁村集落人口は309人であるが、5年前の平成29年の364人から55人減少している。
- 漁協組合員数も5年前の47人から令和4年では41人まで減少しており、海業による地域活性化が課題である。
- 本漁港の水揚げは昭和59年度には1,646tあったが、平成5年度以降、経営不振に伴い定置網漁業の水揚げがなくなり、バッチ網・釣り等についても隣接漁港（安芸漁港、安田漁港）を利用するようになり、現在、本漁港での水揚げはない。漁港利用は、主に船舶の休憩や準備の役割のみとなっている。
- また、利用漁船隻数は5年前に31隻あったものの、令和4年には8隻まで減少しており、利用漁船の減少や漁業活動の縮小により利用の低下した水域施設と漁港施設用地を有効活用した地域の活性化が課題となっている。
- 加えて、本漁港周辺に位置する観光資源はそれぞれが独立し、互いの連携が十分図られていない状況である。
- このため、本漁港を拠点とし、道の駅大山や漁港内に残る河野公園（石積堤）、恋人の聖地等の観光スポットを一連で巡ることができる体験プログラムの検討を進めるとともに、これらの地域資源との連携を目指した新たな海業として、利用の低下した水域施設を活用したマリンアクティビティや、漁港施設用地・公共空地を活用したバーベキュー、キャンプ、グランピング等の検討及び実施を進め、本地区への積極的な来訪者の受け入れにより水産物の消費増進と交流促進を図っていく。

海業の取組概要

【現況】

- ・利用漁船の減少により利用の低下した水域施設や漁港施設用地を有効活用した地域の活性化が課題
- ・観光資源はそれぞれが独立し、互いの連携が十分図られていない状況

【海業の取組】

①連携した体験プログラムの検討及び実施

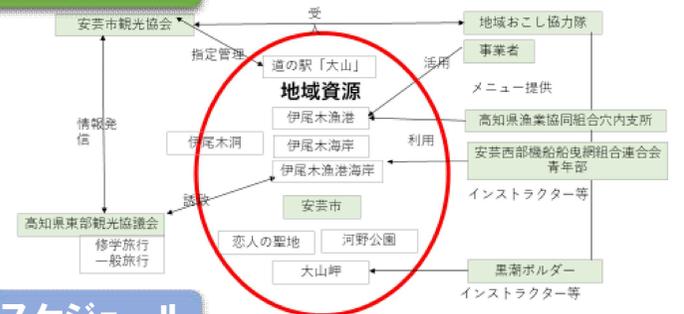
- ・教育旅行等を対象とした観光スポットを一連で巡ることができる体験プログラムの検討及び実施

②利用の低下した水域施設、漁港施設用地や、漁港内の未利用水面・公共空地の活用検討及び実施

- ・漁港周辺におけるバーベキューやキャンプ、グランピング等の検討及び実施
- ・水域施設や未利用水面を活用したマリンアクティビティの実施
- ・釣りやSUPなど水域施設を活用したマリンアクティビティについて、活用方法（占用、漁港水面施設運営権の活用等）を検討



協力体制



スケジュール

〈令和6年度〉

- ①連携した体験プログラムの検討
- ②利用の低下した水域施設、漁港施設用地等の活用検討

〈令和7年度〉

- ①連携した体験プログラムの実施
 - ・教育旅行等を対象とした観光スポットを一連で巡ることができる体験プログラムの実施
- ②利用の低下した水域施設、漁港施設用地等の活用
 - ・漁港周辺におけるバーベキューやキャンプ、グランピング等の実施
 - ・水域施設等を活用したマリンアクティビティの実施

効果

- ①教育旅行受入学校数（0校→5校）
- ②伊尾木漁港観光利用者数（0人→300人）
- ③道の駅大山利用者数（18,257人→23,000人）